

保護回復事業計画評価検証シート

- 1 保護回復事業計画 対象種名 タデスミレ
 2 計画策定年度(評価基準年度) 平成19年度(2007年度)
 3 保護回復事業計画の評価年度 平成26年度(2014年度) 1回目
令和7年度(2025年度)

4 計画の概要

(1) 現計画における課題

- ①本種の生態や自生地での生育状況の詳細が不明なことから、生育状況・生育環境などの把握
- ②本種の生育・繁殖に配慮した自生地の適切な管理手法の検討
- ③ニホンジカの食害の実態把握及び、食害の深刻化が予測される場合には、食害防止対策の検討
- ④人為的な保護増殖技術の確立

(2) 現計画の目標・取組事項

- ◆**目標**
 ・タデスミレの生育環境と生態の調査を進め、現在明らかになっていないタデスミレの生育・繁殖の適正環境を把握し、その上で本種が自然状態で安定的に維持される状態
 ・人為的な保護増殖事業も考慮
- ◆**取組事項**
 ①生息状況・環境調査
 タデスミレの生育・繁殖の適正環境を判明させる調査や過去の施業履歴などの検証
 ②自生地の管理
 現存する個体群の維持と自然状態での増殖に配慮した自生地管理の指針を作成
 ③人口増殖技術の開発
 山火事等の災害による生育環境の損失に備え、趣旨を採取し、確保
 土地所有者及び関係者で情報管理に留意の上、生育地情報の把握・共有化

5 計画策定以降の対象種の動向・現況

評価指標	計画策定時	前回評価時	今回評価時	動向
認定事業地の個体数 (開放花個数)	平成21年(2009年) 58個体	平成26年(2014年) 40個体(推定)	令和7(2025年) 自生は確認	↗
認定事業地の実生個体数	平成22年(2010年) 5個体	平成26年(2014年) 6個体	令和7(2025年) 実生発生は確認	➡
認定事業地のシカ食害対策	平成22年(2010年) 食害率26.5~32.2%(8月)	平成26年(2014年) 食害率0%(6月)	令和7(2025年) 食害率0%	➡
対象種の現況	・個体数については、事業者が除草の中で自生していることは確認しているが、個体数については調査できていない。 ・シカ食害については、平成25年(2013年)、平成26年(2014年)に防鹿柵を設置して以降、回復傾向にあるものと判断される。			

矢印凡例



増加



微増



横ばい



微減



減少

6 保護回復事業計画の見直し

計画継続に関する決定	<p style="text-align: center;"> 計画継続 ・ 計画見直し (部分的修正を含む) (計画終了を含む) </p>
計画継続時の 配慮事項 / 見直し時に 必要な事項	<p>◆計画継続に伴う配慮事項</p> <p>①本種の生態や自生地での生育状況の詳細が不明なことから、生育状況・生育環境などの把握 認定団体による事業がすでに完了していることから、地元や県による定期的な確認が必要。</p> <p>②本種の生育・繁殖に配慮した自生地の適切な管理手法の検討 現在認定団体が作成したマニュアルに従った周辺の草刈が行われており、それが継続できるように情報共有する。</p> <p>③ニホンジカの食害の実態把握及び、食害の深刻化が予測される場合には、食害防止対策の検討 平成 25 年（2013 年）、平成 26 年（2014 年）に防鹿柵を設置しているため、その維持管理と効果についても確認する。</p> <p>④人為的な保護増殖技術の確立 認定団体により育苗された苗は平成 24 年（2012 年）に軽井沢町植物園及び国立科学博物館つくば実験植物園に譲渡され、保存されているため、その他に保全に役立つ技術が無いか情報収集を行う。</p>

付表2

保護回復事業計画 「評価シート（計画策定者）」

1 保護回復事業計画策定者による自己評価


(1) 評価者 長 野 県

(2) 評価における特記事項

タデスマレ自生地のうち、認定保護回復事業地での保護回復の取組内容を対象として自己評価を行った。

(3) 取組の評価と現状に関する意見

①取組内容の評価

項 目	評価	コ メ ン ト
取組の方法は適切か	○	保護回復事業計画の計画事項（①生育状況・環境調査、②自生地の管理、③人口増殖技術の確立、④生育地情報の把握・共有）は、おおむね適切な方法であった。 事業者によって「タデスマレに配慮した巡視路除草・支障木伐採実施マニュアル」が作成され、そのマニュアルによる除草及び支障木伐採が行われている。
取組の頻度は適切か	○	事業者により毎年除草が行われ、その際に自生の確認も行われており、十分な取組が行われていると言える。
取組の成果 (対象種の動向)		タデスマレの生育環境の定期的な管理及び確認が行われており、その方法についても事業者によるマニュアルが作成されているため、一定の成果が得られたと考えられる。

評価凡例〔◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 -:判定外〕

動向凡例〔増加:↑、微増:↗、横ばい:→、微減:↘、減少:↓〕

②計画と取組の課題・問題点及び改善点

計画・取組 の課題・問題点	①地元、認定団体等との情報共有を踏まえた取組の継続 ②生育域全体での繁殖個体数の増加
計画・取組 の改善点	①地元、事業者等と定期的な情報共有を行い、取組の継続を目指す。 ②生育域での繁殖個体数の増加のために定期的な現地の確認を行い、生息数の把握を行う。

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	計画策定時と比較してニホンジカの食害等で生息地の状況は引き続き悪化傾向であり、今後もその対策に取り組む必要がある。活動の拡充や情報共有が今後も必要であることから、計画を継続したい。
計画継続時の配慮事項／見直し時に必要な事項	現状では県が計画事項に引き続き取り組みながら、当面は地元や事業者との情報共有や現地の定期的な確認が必要である。

付表3

保護回復事業計画 「検証シート（研究機関）」

1 取組と対象種の現状に関する意見

(1) 検証者 長野県環境保全研究所

(2) 取組と対象種の現状に関する意見

①対象種の動向

評価項目	評価	確実性	意見・付記事項
個体数	↘	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年に現地調査では、防鹿柵内の開花個体数は100個体以上確認され、実生個体も発生していた。 ・防鹿柵外の個体群では、ニホンジカ採食影響が大きく、総個体数は減少傾向にある。
生育地数	→	A	<ul style="list-style-type: none"> ・県内2地域あったとされる自生地のうち、これまでに絶滅が指摘されている上田市地域について、2024年にも現地調査を実施したが、自生を確認することができなかった。 ・そのため、生育地数はこれまで同様、松本市地域のみで変化なし。

評価凡例〔増加:↑、微増:↗、横ばい:→、微減:↘、減少:↓〕 確実性凡例〔A:高い、B:やや高い、C:やや低い、D:低い〕

②対象種の動向を踏まえた取組の改善点

項目	意見・付記事項
ニホンジカ採食対策	防鹿柵の設置により、柵内の開花個体の保護や開花個体数の増加、また実生更新がすすむことが確認されたが、その一方で、柵外の個体群の保護が不十分な状況となっている。そのため、防鹿柵設置延長の増加か、柵外個体の柵内への保護（移植または播種）を検討する必要がある。
生息環境保全	「タデスミレに配慮した巡視路除草・支障木伐採実施マニュアル」での伐採周期の見直し（概ね5年⇒概ね10年）はタデスミレの生育上支障ないものとする。
生息域外保全	軽井沢町植物園で系統保存されている個体は、継続して生育・開花していることから（2025年確認）、現栽培環境での生育域外保全を継続することが望ましい。
関係者間連携	保護回復実施者、地権者、松本市、長野県の各関係者間での連携を定期的に確認し、協働的な保護回復事業を図ることが期待される。

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	これまでの取組により一定の成果があることから、計画を継続し、さらに取組の改善点の検討に着手することが望まれる。
計画継続時の配慮事項 ／ 見直し時に必要な事項	関係者間での連携を持続的なものとするため、定期的な情報共有及び現況確認の共同実施が望ましい。

保護回復事業計画 「評価シート（保護回復実施者）」

1 保護回復実施者による取組の自己評価

(1) 評価者 中部電力パワーグリッド(株) 松本支社 送電グループ

(2) 取組における特記事項

2012年度（平成25年2月）に策定した「タデスミレに配慮した巡視路除草・支障木伐採実施マニュアル」に基づき生態に悪影響を与えない施業を継続した結果について評価を行った。

(3) 取組の評価と減少に関する意見

①取組内容の評価

項目	評価	コメント
取組の方法は適切か	◎	【除草】年1回（10月上旬施工）・地上5～10cmでの高刈り 【伐採】送電線に支障となる樹木の厳選した伐採 ・実施マニュアルに基づいた取り組みを継続している。
取組の頻度は適切か	○	【除草】年1回（10月上旬施工） ・実施マニュアルに基づいた取り組みを継続している。 【伐採】概ね5年周期（10月～11月頃） ・2014年（H26）設備改修（電線（鉄塔）高上げ）により、前回伐採から13年後の伐採となった。 ※前回伐採（2012年（H24））→最新伐採 2025年（R7） 伐採頻度の見直しは、後述「②明らかとなった課題・問題点」へ記載
取組の成果（対象種の動向）	○	【除草】【伐採】 ・タデスミレが自生していることは確認している。

評価凡例 [◎:十分 ○:適当 △:やや不足 ×:不十分 -:判定外] 矢印凡例 [増加↑ 変化なし→ 減少↓]

②明らかとなった課題・問題点

計画・取組の課題・問題点	・2014年（H26）設備改修（電線（鉄塔）高上げ）により、前回伐採から13年後の伐採となったが、毎年行う年1回の除草時にタデスミレの自生を確認し、問題ないことが確認されたため、伐採周期の見直し（概ね5年⇒概ね10年）とすべく「タデスミレに配慮した巡視路除草・支障木伐採実施マニュアル」を反映し修正する必要がある。 ※今回、修正版を作成した。
--------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 計画の継続・見直しに関する意見

計画継続に関する意見	・今後も自生地周辺における設備維持管理を通じ、タデスミレ自生地の保護に貢献するとともに、関係者（県および地元）と連携していきたい。 ・環境評価（特に対象種の動向）を行うには、開花時期（5月中旬～6月上旬）に自生地を確認することが望ましいと言える。したがって、今回のような評価シートの報告依頼は、前年度末または年度当初にお願いしたい。
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------